

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

CONTENTS

- ① 平成26年度研究体制とミッション
- ③～④ 地域支援活動の紹介
- ④～⑤ 情報ひろば
- ⑥～⑧ 人と防災未来センター MiRAi

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **46** 平成26年
(2014) 7月

平成26年度研究体制とミッション

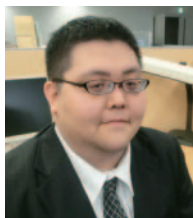
当機構の平成26年度研究体制をご紹介します。研究調査本部では、防災・減災の社会づくりに資するとともに、21世紀文明のあり方について研究し、国内外の政策形成に情報発信すべく、研究調査の推進を図っていきます。

研究テーマと担当研究員

「災害時の広域連携支援の役割の考察」

鶴谷 将彦 主任研究員

広域行政主体の災害支援活動の有効性と課題を考えるために、関西広域連合の東日本大震災での対応を検証する。そして複数の復旧・復興支援の方式の比較検討や他国の防災行政組織の比較研究を通して、日本の防災行政組織のあり方について、政策提言を行う。



「災害時の生活復興に関する研究」

荒木 裕子 嘱託研究員

昨年度の「東日本大震災生活復興プロジェクト」のフォローアップを行いながら、災害時における生活復興のあるべき姿、課題解決に向けた共通要素・プロセスを明らかにし、来るべき災害に対し各セクターが個別に、あるいは連携して備えておくべき事項について政策提言を行う。



「大震災復興過程の比較研究～関東、阪神・淡路、東日本の三大震災を中心に～」

金 恩貞 研究員

次なる大震災に対していかに備えるべきかという問題意識に立ち、関東大震災、阪神・淡路大震災、東日本大震災の3つの震災について、①震災をめぐる社会的認識②政府の危機管理③復旧復興の政治過程、という視角から比較研究を行い、震災からの復旧・復興体制など政治・社会体制のあり方について政策提言を行う。



「人口減少下の多自然地域の魅力づくりの研究～シニア世代を活用した新たなビジネス展開～」

杉山 武志 主任研究員

人口減少や高齢化、基幹産業である農林水産業の衰退が進む一方で豊かな資源を持つ多自然地域を対象に、シニアとシニアに関わる若者や支援者の関係を視野に入れた新たなビジネスモデルを研究し、自律的な地域社会と経済の維持を目指すビジネス構築に向けた政策提言を行う。



HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

特別展

宝塚歌劇100年展 一夢、かがやきつづけてー

華やかな舞台上で人々を楽しませ、独自の演劇文化を築いてきた宝塚歌劇の100年を、多彩な資料、美術作品、舞台装置などでさまざまな観点から紹介。見て、感じて、体験する立体的な展示を通して、日本の演劇界や文化に大きな役割を果たしてきた宝塚歌劇の魅力を伝えます。

■会期=8月5日(火)~9月28日(日)
■観覧料=一般1,300(1,100)円、大学生900(700)円、高校生・65歳以上650(550)円、中学生以下無料

※()内は前売料金および20人以上の団体割引料金(高校生・65歳以上は前売販売なし)



記念講演会「宝塚歌劇と阪神間の文化」

講師:河内厚郎氏(演劇評論家、阪急文化財団理事)

■日時=8月17日(日)14時~(約90分)

■場所=ミュージアムホール

■参加費=無料(定員250人)※要展覧会観覧券

こどものイベント

「きらきら髪飾り・きらきら蝶ネクタイをつくろう!」

舞台上で映えるきらきら輝く素敵な髪飾り・蝶ネクタイを作ります。

講師:宝塚舞台衣装スタッフ

■日時=9月6日(土)10時30分~15時

■参加費=1,000円(定員30人、小・中学生とその保護者)

※往復はがきで申し込み(8月18日(月)必着)

問い合わせ先:子どものイベント係 TEL 078-262-0908

学芸員による解説会

■日時=8月16日(土)、30日(土)、9月13日(土)、27日(土)16時~(約45分)

■場所=レクチャールーム

■参加費=無料(定員100人)※展覧会観覧券不要

ミュージアム・ボランティアによる解説会

■日時=会期中の日曜日 11時~(約15分)

■場所=レクチャールーム

■参加費=無料(定員100人)※展覧会観覧券不要

※上記のほか、現役のタカラジェンヌや元タカラジェンヌが出演するイベントも予定。詳細が決まり次第、当館ホームページなどでお知らせします

県美プレミアム展

美術の中のかたち一手で見る造形 横山裕一展「これがそれだがふれてみよ」/「鳥・獣・人・等~新収蔵品を交えて」

視覚に障がいのある方にも美術館に来てほしいという思いから始まった「作品に手で触れて鑑賞することのできる」恒例企画の25回目。横山裕一氏を出展作家に迎え、当館所蔵の彫刻品とのコラボレーションを試みます。

また同時開催のテーマ展では、昨年度新たに当館に所蔵された作品をそれらと関連性のある既存の作品とともに展示します。

■会期=7月19日(土)~11月9日(日)

■観覧料=一般510(410)〈250〉円、大学生410(330)〈200〉円、高校生260(210)〈130〉円、65歳以上255(205)〈120〉円、中学生以下無料

※障がいのある方とその介護の方1人は無料

※()内は20人以上の団体割引料金

※〈 〉内はクールスポット指定期間(9月30日(火)まで)の特別料金

◎休館日=月曜日(祝日の場合は開館し、翌平日は休館)

◎開館時間=10時~18時(特別展開催中の金曜・土曜は20時まで)

※入場は閉館の30分前まで

TEL 078-262-0901(代) <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

JICA関西

◆食べることから始める国際協力!

JICA関西食堂の月替りエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでもご利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。大好評の月替りエスニック料理の8月はイラク料理をご用意します!ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。



6月のブラジル料理

メニューの詳細と写真については、

こちら→ <http://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>

■営業時間=(昼)11時半から14時まで (夜)17時半から21時まで

※各終了30分前ラストオーダー

◎問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西国際センター)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

TEL 078-261-0341(代) FAX 078-261-0342

Eメール jicaksic-event@jica.go.jp <http://www.jica.go.jp/kansai/>

日本赤十字社 兵庫県支部

赤十字の講習のご案内 ~「もしも」に備える~

急病や不慮の事故からご自分の身を守り、大切な人のいのちを救うための正しい基礎知識と技術を身につけてみませんか?

日本赤十字社では、万一の病気やけが、災害などに備え、人命を救う方法や健康で安全に暮らすための知識や技術を伝えるための講習を行っています。



■講習内容・日程

・救急法基礎講習=10月4日(土)

・救急法救急員養成講習(2日間セット)=9月20日(土)・21日(日)

・救急法基礎・救急員養成講習(3日間セット)=9月13日(土)・14日(日)・15日(月・祝)または10月5日(日)・11日(土)・12日(日)

・水上安全法(3日間セット)=9月14日(日)・15日(月・祝)・20日(土)

・幼児安全法(3日間セット)=10月13日(月・祝)・19日(日)・26日(日)

・健康生活支援講習(3日間セット)=9月20日(土)・21日(日)・27日(土)

・科目別講習(講習の一部のテーマを短時間で習得できます)

▶ 健康生活支援講習=10月18日(土)

テーマ:「だれもが知っておきたい介護の基礎知識」

「高齢者の健康管理と家庭内の事故防止と応急手当」

※開催日程など、詳しくはHPをご覧ください

活動資金にご協力をお願いします

いのちと健康を守る赤十字活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金で成り立っています。

◎お問い合わせ

TEL 078-241-1499

赤十字 兵庫

検索

あった、あった、ここや。
えらい大きい会社やなあ、ドキドキしてきたわ。

あかん、鎮まれ心臓
営業マンに弱気は禁物、最初が肝心や。

初めて出会った
人と人との
つながり。

それが、
わたしたちのしごとです。

「はじめまして。カワサキと申します」
名刺を交換したらお付き合いの始まり。
小さな紙片からどれだけ仕事広がるか、
さあ、ガンバルぞお〜!

●地域支援活動の紹介●

こころのケアセンター相談室では、日常の電話・面接によるこころの傷(トラウマ)、心的外傷後ストレス障害(PTSD)等こころのケアに関する相談を行っています。また、地域との連携窓口としての役割も担っています。

災害や事件・事故などの発生時には「こころのケア」についての緊急的・集中的な対応が必要となり、地域からの要請に対して、体制整備についての助言をはじめ、こころのケアチームを派遣し、現地で被災者(被害者)と支援者への支援活動を行っています。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、「兵庫県こころのケアチーム」のメンバーとして現地に赴き、避難所や仮設住宅において支援活動を行うとともに現地スタッフへの研修等を行ってきました。昨年度も、宮城県の保健所や市町保健センター、こころのケアセンターに対して継続的なコンサルテーションを行いました。

また、子どものトラウマ反応についてのコンサルテーションやトラウマ・フォーカスト認知行動療法(TF-CBT)についての研修など、子どもの心の健康について継続的に支援しています。東北大学や福島こころのケアセンターと協同で、サイコロジカル・リカバリー・スキル(SPR)の普及啓発を実施しました。今年度も引き続き被災地への支援を行うとともに、東北大学や福島県立医科大学病院に設置されている災害精神医学講座と連携して調査研究を実施していきます。

昨年発生した宝塚市庁舎の火災事件においては、宝塚市からの支援要請があり、市職員の健康調査実施への助言や結果分析、相談体制についての助言を行いました。また、職員のこころのケアに関する研修会の講師として職員を派遣するなど、関係職員のPTSDの予防と支援者のこころのケアを実施しました。

今後も、これまでに積み上げた活動を基に、災害や事件・事故等の発生時の支援活動に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

主な活動実績

- 東日本大震災
- ニュージーランド地震
- 平成21年台風9号災害(佐用町・宍粟市)
- 中国四川大地震
- 能登半島地震災害
- JR福知山線脱線事故
- スマトラ島沖地震における津波災害(インドネシア)
- 平成16年台風23号災害(但馬・淡路)
- 新潟県中越地震災害
- 新潟県豪雨災害



子どもの心のケア専門研修会(岩手県)



地元支援スタッフとの検討会(宮城県)



地域保健医療福祉関係者研修会(岩手県)



子どものトラウマと家庭でできる対処法について

こころも「ケガ」をします

日常生活の中では、さまざまな出来事やトラブルが起こります。ちょっとした問題であれば、普段とっている対処法で乗り越えることができますが、強い恐怖感や何もできなかったという無力感、トラウマ(心的外傷)となることがあります。このようなトラウマ体験は、決して珍しいことではありません。

トラウマの原因となること

自然災害・人為災害、子ども虐待、暴力や犯罪被害、事故や暴力の日撃、交通事故、レイプなどの性被害・年齢不相应な性的体験、重い病気・怪我などの苦痛を伴う治療、家族や友人など大切な人の死 など

トラウマ反応の特徴

からだの反応 : 食欲不振・腹痛・下痢・吐き気・頭痛、排泄の失敗・頻尿、眠れない・怖い夢を見る など
 こころの反応 : 一人でのいるのを怖がる、怒りっぽい・イライラする、急に興奮する、自分を責める、無力感・疎外感を感じる など
 生活・行動の変化 : 多動・多弁・集中困難、沈黙・無表情・泣くことができない、赤ちゃん返り、甘えが強くなる、反抗・乱暴、大人の気を引く行動、トラウマの原因となった出来事に関連した遊び、ひきこもり など

※子どもの場合は、大人と比べて身体の不調や行動上の問題として現れやすい傾向があります。また、一見するとトラウマが原因となっていると気付かない場合があります。トラウマ(心的外傷)となるような出来事を体験すると、しばらくの間、心身の不調が生じるのが一般的です(このような反応が長く続き、学校生活や家庭生活に支障が出る場合は、専門機関に相談しましょう)

ご家庭でできる対処法

- できるだけ安全な日常生活を取り戻し、安心させてあげましょう
- からだをリラックスさせてあげましょう
- 話をじっくり聞いてあげましょう
- 子どもの活動の場をできるだけ確保しましょう
- 規則正しい生活をサポートしましょう
- 家族の体調管理も大切です

情報ひろば

兵庫県こころのケアセンター

平成26年度 第1期「こころのケア」研修の受講生募集

兵庫県こころのケアセンターでは、「こころのケア」に携わる保健・医療・福祉等の分野で活動されている方を対象に、各種課題への対処法等について学ぶ「専門研修」を実施しています。

9月から10月にかけて実施する研修の受講生を次のとおり募集しています。ぜひご参加ください。

- ▶研修概要(右表)
- ▶場所=兵庫県こころのケアセンター
- ▶申し込み方法=受講申込書(※)に必要事項を記入の上、郵送またはFAX、Eメールで下記照会先までお送りください。申込者多数の場合は、各研修開始日の1カ月前(前月の同じ日)の17時を期限として、初めて受講の方を優先の上、抽選で受講者を決定します。

※当センターホームページからダウンロードできます

- 申し込み・問い合わせ
 (公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
 兵庫県こころのケアセンター
 〒651-0073 神戸市中央区臨浜海岸通1-3-2
 (阪神「春日野道」駅から南へ徒歩約8分)
 TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017
 Eメール kensyu@j-hits.org http://www.j-hits.org/

区分	コース名	期間	定員	対象	受講料(資料代等)
専門研修	①悲嘆の理解と遺族への支援	9/17(水) 18(木) (2日間)	35人	医療・保健・福祉・心理臨床の分野で活動する者および遺族支援に携わる者	3,500円
	②DV被害者のこころのケア	9/24(水) (1日間)	35人	母子自立支援員、女性相談員(婦人相談員)、婦人保護施設職員、母子生活支援施設職員、家庭問題相談員、保健師、福祉事務所職員、こども家庭センター(児童相談所)職員等DV被害者相談支援関係職員	2,500円
	③警察職員のためのストレスマネジメント	10/1(水) (1日間)	30人	警察職員	2,700円
	④被災者や被害者をささえるためにーサイコロジカルファーストエイドを学ぼうー	10/8(水) 9(木) (2日間)	25人	学校・社会福祉協議会・保健師・病院等の精神保健福祉関係者	4,000円
	⑤犯罪被害とこころのケア	10/16(木) 17(金) (2日間)	25人	保健・医療・福祉・教育・司法・警察・消防関係職員	4,000円

学術交流センター

「ひょうご講座2014」開催のご案内

当機構では、兵庫県内の大学や研究機関等と連携して、専門的な大学教養レベルの生涯学習講座「ひょうご講座2014」を9月から開催します。

数ある生涯学習の中でも、特に1つの科目・テーマを掘り下げて幅広い視点から考察するのが本講座の特徴です。時代の潮流を踏まえたテーマで6科目を実施します。

■概要等

- ▶時間＝平日(火曜・木曜・金曜)18時30分～20時
- ▶日数＝10回(1回当たり90分講義。週1回、同一曜日に実施)
- ▶受講料＝1万5,000円(1科目)
- ▶定員＝各科目約40人
- ▶開講場所＝兵庫県民会館(地下鉄「県庁前」駅下車すぐ)
- ▶開設科目

分野	科目名	日程
経済	EUの発展と危機、日本は何を学べるか	9/2(火)～11/11(火)
生命化学	健康サイエンス	9/2(火)～12/2(火)
心理	心理療法を通じて見える人の心の不思議さ・奥深さ	9/4(木)～11/6(木)
考古	考古学最新研究から“ひょうご”を考える	9/11(木)～11/13(木)
国際理解	チャイナドリームと日中関係の行方	9/5(金)～11/7(金)
緑環境	多面的な視座から見る緑化の可能性	9/5(金)～11/7(金)

《注目の科目》

「EUの発展と危機、日本は何を学べるか」

・欧州連合(EU)が、どのようにして5億人の人口を誇る巨大な超国家組織に形成されてきたのか、EUが抱える政治・経済・文化等の問題とは何なのか、さらに、日本との経済連携協定(EPA)の見通しはどうかなど、日本はEUとどのように付き合っていけばよいかを考えます。

「健康サイエンス」

・私たちの健康や病気について化学分子のサイズや挙動で理解でき、生命分子(DNAやタンパク質)の基本的な構造、物性・機能から最先端の話(遺伝子診断・iPS細胞)や未来生活への応用・展望までの生命化学が学べるよう計画しています。

「考古学最新研究から“ひょうご”を考える」

・兵庫県内各地で行われている発掘調査により、古代ひょうごの「人」や「社会」、地震等による地形の変遷からの「環境」、国内外との「交流」の存在など、考古学および関連諸科学の専門家により、考古学最新研究を発信する講座を目指します。

「多面的な視座から見る緑化の可能性」

・都市の緑は、人に潤いと安らぎを与えてくれるだけでなく、温湿環境の改善、景観の形成、防災機能、生物多様性の確保などがあります。兵庫県における新たな緑化の展開に向け、多面的な視座からその可能性を解説していきます。

■募集期間

各開講日の1週間前まで、ただし、先着順に受け付け、定員になり次第締め切ります。(WEB、FAX、郵送で受け付け)

●問い合わせ

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
学術交流センター 交流推進課
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122
http://www.hyogo-al.jp/kouza/



ひょうご講座

検索

兵庫自治学会のご案内

兵庫自治学会とは、県政および県内市町行政の振興と地域の発展のために、行政や地域に関するさまざまな課題について研究し、課題解決のための政策形成能力の向上と、組織や職種を超えた幅広いネットワークづくりを目指している団体です。自らの視野を広げるため、一歩踏み出してチャレンジしてみませんか?

■入会するとこんなメリットが!

- ①研究発表大会での発表・ディスカッションを通じて、興味のある行政・地域課題についての研究に取り組み、学識者のアドバイス・助言を受けることができます!
- ②グループでの研究やセミナー等を企画・実施しようとする人は、資金面等で援助が受けられます!研究に関しては指導・助言を行う学識者のあっせんも受けられます!
- ③日頃の研究成果を論文として投稿でき、査読を受けて学会誌に掲載されます!
- ④会報、メルマガ、ホームページ等を通じて、研究発表大会・セミナー・他の会員が主催するイベント等の情報を定期的に受け取ることができます!
- ⑤学会事業への参加を通じ、興味を同じくする地方自治体職員、NPO関係者、学識者、さらには米国の行政関係者らとの、人的ネットワークを広げることができます!

■学会の主な事業

(1)研究発表大会(平成26年度大会概要)

▶日時＝10月4日(土)

10時45分～18時

▶場所＝兵庫県立大学・神戸商科キャンパス(神戸市西区学園西町8-2-1)

大会テーマ:希望ある地域社会の創造に向けて

▶内容＝〈午前〉全体会(講演)

講師 玄田 有史氏(東京大学社会科学研究所教授)

〈午後〉分科会

会員等による研究発表および参加者との意見交換、交流会

※参加申し込みの受け付けは9月より開始します。



前回の研究発表大会分科会の様子

(2)グループ研究応援事業

グループで行うさまざまな地域課題に関する研究活動に上限10万円まで助成します。

(3)コラボレーション・プロジェクト

会員が自主的に企画・開催する地域・行政課題等に関するセミナー等に、上限10万円まで助成します。

(4)兵庫自治学会セミナー

行政・地域課題をテーマにしたセミナーを県内地域で開催します。

(5)論文の自主投稿(査読付)制度

会員からの自主投稿論文を募集しており、査読を受けた論文が掲載されます。

(6)全米公共・行政学会(ASP)との交流

米国の行政実務家や学識者などで構成され、行政に関する学術の向上促進を目的とするASPとの交流を行っています。

■会員になるには

年会費2,000円

兵庫県職員、県内市町職員、県内に在住または在勤の学識者・NPO職員・個人ならどなたでもご入会いただけます。(会員数約740人)

●問い合わせ

兵庫自治学会事務局

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構・学術交流センター内

TEL 078-262-5714 FAX 078-262-5122

Eメール gakujuitsu@dri.ne.jp http://hapsa.net/

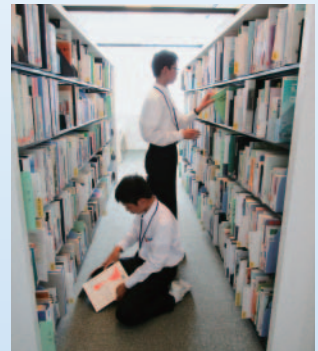
平成26年度トライやる・ウィーク

6月3日から6日までの4日間、神戸市立有馬中学校の2年生2人が、トライやる・ウィークとして人と防災未来センターで実習を行いました。

シアターへの来館者の誘導、実験コーナーでの来館者の実験の手伝いや、資料室収蔵庫での作業に加え、閲覧室の図書展示作成等、さまざまな体験をしました。



閲覧室の特集コーナーを作成



書架整理に励む生徒

災害報道のあり方研究セミナーの実施結果

人と防災未来センターが事務局となり、阪神・淡路大震災20年を迎えるにあたって、マスコミが「何を、どのように伝えるべきか」のヒントを得てもらうため、災害報道の経験の浅いマスコミ関係者等を対象として、4回連続セミナーを2月～6月に神戸国際会館で開催しました。

各回とも、テーマに合わせて講師を招き、熱のこもった講義をしていただき、参加者からも好評を得ました。

- 第1回 平成26年2月28日:「阪神・淡路大震災の概要と震災報道の教訓」
講師:齋藤富雄(兵庫県国際交流協会理事長・元兵庫県副知事)、桜間裕章(神戸新聞論説委員長)
- 第2回 平成26年3月28日:「災害報道の現場から」
講師:武居信介(中京テレビ報道部デスク)、近藤誠司(NHK大阪放送局ディレクター)、今野俊宏(河北新報社報道部長)
- 第3回 平成26年5月2日:「災害法制度の概要と変遷」
講師:武田文男(政策研究大学院大学教授)、河田恵昭(人と防災未来センター長)
- 第4回 平成26年6月10日:「行政の災害対応の概要」
講師:小林佐登志(静岡県地震防災センター所長・元静岡県防災監)、杉本明文(兵庫県防災監)



第1回(齋藤富雄元兵庫県副知事)



第2回(今野俊宏河北新報社報道部長)



第3回(河田恵昭人と防災未来センター長)



第4回(小林佐登志静岡県地震防災センター所長)

平成26年度 1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」募集中

阪神・淡路大震災の経験と教訓を未来に向かって継承していくため、学校や地域で防災教育や防災活動に取り組んでいる子どもや学生を顕彰する事業です。

ぼうさい甲子園では、日常の備えとなる学校や地域での取り組みを募集しています。さらにテーマ賞として、東日本大震災で津波の被害が大きかったこと、全国において津波の被害が懸念されていることから、津波避難訓練や津波対策の取り組みを対象とした「津波ぼうさい賞」、国語、理科、家庭科等の一般教科に防災を取り入れ、教科教育の中での防災教育の取り組みを対象とした「教科アイデア賞」を選考します。また、防災教育の裾野の拡大を期待し、「過去に応募がなかった地域での取り組み」を対象とした「フロンティア賞」を設けるなど、大賞や優秀賞以外で特色のある取り組みを表彰します。その他、継続的にご応募いただいている学校・団体の表彰も予定しています。

今年度は、阪神・淡路大震災から20年を迎え、「ぼうさい甲子園」は10周年を迎えます。次世代を担う子どもたちの防災活動や災害に取り組む活動が、防災教育の新たな道を切り開き、前進していきますようにとの願いを込めて、1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」を実施します。



過去の受賞校の取り組み等を携帯で見ることができます。

【対象部門】
 ①小学生 ②中学生 ③高校生 ④大学生
 (その他:自主防災組織・NPO等からも各部門に応募可)

【対象活動】
 自然災害から命と暮らしを守るための防災教育や防災活動の取り組み。応募は学校、クラス、サークル活動、ボランティア活動、地域などの単位で。※他薦歓迎

【対象期間】
 平成25年10月1日～27年3月31日(活動予定も含む)

【応募締め切り】
 平成26年9月30日(火)(消印有効)

【応募方法】
 ■下記のURLの申込フォームから申し込みいただくか、応募用紙をダウンロードの上、郵送で応募してください。
<http://npo-sakura.net/bousai-koushien/>

【応募用紙の配布】
 下記の機関で応募用紙を配布しています。
 ・兵庫県復興支援課 TEL 078-362-9984
 ・(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター TEL 078-262-5068

【応募先】
 〒663-8201
 西宮市田代町16-8 パルティールN棟西号室
 ぼうさい甲子園事務局 (特非)さくらネット
 TEL 0798-64-5829 FAX 0798-65-5254
 Eメール bousai_koushien@yahoo.co.jp

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
 観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

開館時間 9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)
 ※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)
 ※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

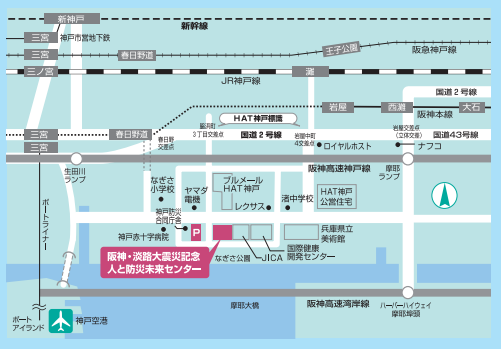
入館料金

大人	大学生	高校生	小・中学生
600円(480円)	450円(360円)	300円(240円)	無料

※()は20人以上の団体料金
 ※障害者、65歳以上の高齢者は上記の半額

休館日
 毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
 ※ゴールデンウィーク期間中(4月28日から5月5日まで)は無休
 ※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

- 交通**
- 鉄道**
- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
 - ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
 - ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分
- バス**
- ・三宮駅前から約15分
- 車**
- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
 - ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
 - ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分
- 有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



平成26年度春期 災害対策専門研修マネジメントコースの実施結果

人と防災未来センターでは、地方自治体職員などを対象とした「災害対策専門研修」マネジメントコースを平成14年度から実施しています。当該コースは、災害対策実務の中核を担う人材の育成を目的とし、阪神・淡路大震災の教訓を学習することを重点としつつ、最新の研究成果も取り入れ、能力に応じた体系的、実践的なカリキュラムとしています。これまでに、延べ2,000人を超える方々が受講され、全国の自治体等から高い評価を得ています。春期研修においては、ベーシック、エキスパートAおよびエキスパートBの3コースを実施しました。

ベーシックでは、経験年数の浅い防災・危機管理担当部局の職員を対象に、災害の発生に関する理論や阪神・淡路大震災の経験を踏まえた災害対策のあり方など、基礎的な事項についての体系的な講義やセンターの資料展示を活用した演習などを実施しました。

また、エキスパートAおよびエキスパートBでは、防災・危機管理担当部局の職員を対象として、大規模災害発生時に各種の対応が同時並行的に展開する状況を横断的・総合的に捉え、これに対処する能力を向上させることを目的に研修を実施しました。カリキュラムとしては、報道機関と連携した積極的な情報発信のあり方をテーマとした講義や災害対策本部を機能させる効果的なレイアウトを考える演習、防災・減災ワークショップの手法を学ぶ演習などを行いました。

研修終了後のアンケートでは、「災害の仕組みを知ること、今後起こり得る状況が予測でき、また、被災者の立場に立って考えることで、今後どのように対応すべきか学ぶことができました」「特に部局横断的に災害対策業務を捉える視点を得たと思います」「座学と演習のバランスは良いものの、実践的内容や参考事例がもっと多く聞けると即活用できると感じました」など、意見が寄せられました。さらには、受講者間の交流を通じて防災担当者の全国的なネットワークが一層強まりました。



防災・減災カフェ:大規模災害における行政の対応実態 (6月4日ベーシック)



全体討論会ワークショップ(6月6日ベーシック)



自治体における災害対応の実際(6月13日エキスパートA)



ゲーミング手法を活用した防災・減災ワークショップ (6月19日エキスパートB)

コース名	日程	参加人数
ベーシック	6月3日(火)~6日(金)	45人
エキスパートA	6月10日(火)~13日(金)	28人
エキスパートB	6月17日(火)~20日(金)	28人
合計(延べ)		101人

※秋期(10月)に、エキスパートA、エキスパートBおよびアドバンス・防災監／危機管理監の3コースを予定しています(8月下旬に案内予定)。



Hem21 NEWS
vol.46

平成26年7月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<http://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理
TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究調査本部
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター
TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

●学術交流センター
TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・ご感想を機構までお寄せください